

マレーシアの子ども用車椅子工場 ALRPS ドリームファクトリー



当会のマレーシアのパートナーである ALEPS（東方政策元日本留学生同窓会）は彼らが日本で学んだ技術を生かして、当会支援会社ドリームファクトリー西野社長の指導を受けながら、マレーシア政府から創造力のある工業製品を奨励する助成金（100 台分の材料費）で、2012 年から車椅子の修理とともに生産も始めて、軌道に乗せながら年間 50 台を計画している。（写真はサイド会長と従業員）



溶接やプレス、裁縫ミシンなど機械設備も揃ったが、ノウハウがなく課題が多い



ALEPS ドリームファクトリーの生産中の車椅子



マレーシアには子ども用車椅子を専門に生産している工場はない。
また輸入品は大人用の小型サイズで移動手段のものだが、ALEPS ドリーム工場では日本から学び子どもの症状やサイズに合ったものを作っている。でも微妙な調整が難しい。



ALEPS 製のオレンジカラー



塗装は外注する。

マレーシアには当会設立以来 10 年間に 9 回 738 台の障害児用車椅子を送ってきた。
当初は障害児用車椅子を必要とする子どもに緊急な人道支援として車椅子を届けたが
その後グローバルなリサイクル事業で持続的なプロジェクトとして保守修理できるよ
う技術指導。それから車椅子製造のノウハウを伝えて現地で生産できるような自立開発
支援としてプロジェクトを発展的にすすめている。
当会は本来の海外支援のあるべき姿が実現できるように努めている。

マレーシアでの障害児用車椅子贈呈式 2014 年 4 月 12 日



マレーシアの中部ペラ州の首都イポーで、はじめて州政府の福祉局長や各地方の障害児支援団体責任者や物理療法士など 120 名を招いて車椅子 28 台の贈呈式を行いました。今回は事前にフィッティングを行い、当日保護者と共に出席した子ども達に当会から車椅子を引き渡しました。これまでは大人用等を使っていたために背骨が曲がってしまった子どもは日本の適合する車椅子で矯正できると物理療法士も母親も喜んでいました。



台数も十分でなく脳性マヒ重度の子どもたちを重点に寄贈しました。関係者からは今後も継続して送ってくれるよう強く要請されました。当会はこれまでにマレーシアには累計 700 台以上を寄贈



車椅子を受け取って喜ぶ親と子ども達



これから車椅子で親の負担が減り家族の生活も変わる。



贈呈式会場の風景



イポー市の多目的ホールで関係者 120 名出席
式の後ティーパーティーで参加者と懇談



現在マレーシアには 493 の CBR 団体が村落で障害者支援を地域ぐるみで行っている。今障害児は全国で 17,000 名内脳性マヒ、事故による肢体不自由児等適切な車椅子を必要とする子どもは 30%約 5000 名いると推定している。通常は何の機能も付いてなく、適合もしない移動用の車椅子を使っている。